

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人 あすなろ会		
事業所名	グループホーム高草あすなろ		
所在地	鳥取県鳥取市大楠330		
自己評価作成日	令和6年12月19日	評価結果市町村受理日	令和7年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和7年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は長閑な田園地帯に位置し、天気の良い日は外気浴をして草花や田園に広がる稲、ソバの花などの成長を視覚で感じられる環境となっている。ご利用者と一緒に季節感ある壁面や作品作りに取り組み、地域2か所の公民館に出展することが恒例となっている。地域の方は毎年楽しみにされており、ご利用者の意欲に繋がっている。古くから家庭で行われてきた季節の習慣を大切にして、積極的に行事として取り入れている。中でも、旬の果物の提供や食材を使用した手作り料理、おやつで季節感を感じて頂けるよう工夫に努めている。ご利用者のケアを進める上で、ご家族との密な連携を図り、お互いに協力しながらケアを提供している。定期的にご家族との面談を実施し、ケアの方針やご利用者の状態についての理解を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は 田園地帯の自然豊かな立地にあり、季節の移り変わりを感じられる環境の元、併設の特別養護老人ホーム、短期入所、居宅介護支援、通所介護サービス等の施設と協力し、施設運営されている。利用者がより良く暮らすために、職員間でケアの方針の充分な共有、定期的な家族との面談やアンケートで、密な連携を図っていることが大変よく感じられた。敬老会、忘年会等の行事には、利用者・スタッフと協力して手作りの料理を作られ、家族会ではちまき作り、餅つき等を共に行われるなど、利用者と家族の絆を大切にしている点が非常に優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が所持する「職員必携」にファイルしている。玄関に理念を掲示している。いつでも確認して実践できるように、職員は名札の裏に入れ携帯している。また、介護士会開催時には、職員全員で復唱している。	理念を玄関へ掲示。「職員必携」にファイル。また名札の裏に携帯して介護士会では復唱するなど利用者と地域を大切にすることを実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	鳥取市東部における感染状況等を踏まえながら出来る範囲で地域との繋がりに配慮し、地域の公民館祭への作品の出品を行い、少人数ではあるが、参加出来た。	状況等を踏まえながら公民館祭りへ作品を出品、また少人数ではあるが参加できた。また、地域住民の方から梨をいただく等のこともあった。2ヶ月に1回広報誌を発行し、情報発信されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回発行している広報紙に、認知症に関連した実践内容を掲載している。理解や支援に繋がるようい、公民館へ直接持参して関係づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所での活動状況や現状報告を行い意見交換をしている。そこで頂いた意見や助言をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議では、活動状況、現状報告を行い意見交換をしている。地域住民の運営推進委員からのアドバイス(紅葉スポットへのドライブ等)をサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者、地域包括支援センター職員、有識者の方々が参加しており、事業所の活動報告及び現状を報告し、協力関係が築けるようにしている。	市担当者、地域包括支援センター職員、有識者の方々が運営推進会議に参加されており、事業所の活動報告及び現状を報告し、意見やアドバイスをもらわれながら、協力関係が築けるよう努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	貸与されている職員必携に、「身体拘束ゼロ宣言」と「身体拘束適正化に対する指針」が盛り込まれており、日々のケアに活かしている。併設施設との委員会に出席し、施設全体で内容の検討や確認をしている。	同法人内のすべての事業所、職員が「身体拘束ゼロ」「身体拘束適正化」に対する指針の実践に努めている様子がうかがえる。年2～3回、虐待防止委員会で目標を定め、施設内に標語を掲示し啓発活動に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員に自己点検チェックシートを年2回配布。無記名で提出し部署ごとに集計。虐待防止委員会で検討して、見過ごされる事が無いようにしている。虐待防止の標語を掲示し啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	12月の介護士会で、権利擁護に関する制度の研修を行い、必要に応じて活用できるようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明をする事を心掛け、理解して頂くようにしている。後日、不明な点があれば、いつでも説明させて頂く事も伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時は近況報告をして、気軽に話して頂けるように心掛けている。無記名の家族アンケートを毎年実施し、集計結果を事業所内に掲示し公表、運営推進会議にて報告して運営に反映させている。	来所時には現状報告を通じて気軽に話し合える努力をされている。無記名の家族アンケートも毎年行い、集計結果を広く公表し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回人事考課時、管理者は職員と面談。意見を直接聞き反映している。法人は、全ての職員対象に、年1回自己申告書を事務局あてに直接提出する事で、上司に言えない事でも意見を聞く機会を設けている。	年2回管理者の職員面談を行い、意見を直接聞き、運営に活かしている。法人は、すべての職員対象に、年1回自己申告書を事務局あてに直接提出する事で、上司に言えない事(シフトについての希望等)の意見を聞く機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課時に個別に話を聞き、やる気や向上心を持って働けるようにサポートしている。また、安全衛生委員会による職員アンケートにて職員の意見を吸い上げ、働きやすい職場環境の構築をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じた研修を法人が実施している。毎年、法人内で事例研究発表会があり、自分たちのケアを見つめ直す機会となっている。参加しない職員に対し、伝達講習をする事で周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、年4回管理者ネットワークの会が開催され、認知症ケアに活かしていたが、感染症のリスクを考慮して、今は行われていないのが現状である。他法人の運営推進会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査を行い本人・家族と面談し、生活状況や要望を伺い、関係機関からも情報収集を行い、本人が新しい環境で不安を少しでも軽減できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や要望等を聞き、情報を整理した上で、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を確認した後、家族を交えて、グループホームと他のサービス内容を説明し、適切な支援に繋がる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人が役割を持てるよう、馴染みのある事や得意な事を職員と共にやっている。また、会話の中から更なる情報を引き出し、それを実践に繋げやりがいを感じられる生活支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と疎遠にならないよう2か月に1回広報紙を送付し、近況報告を行っている。また、通院介助を依頼したりと家族と共に支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に、必要物品の持参や受診の付き添い等、役割を持ってもらい、出来るだけ来所してもらえるように工夫している。	その時の感染状況を踏まえながら、必要物の持参、受診の付き添い等、家族に役割を持ってもらうことで、来所の機会を増やせるよう工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮した席となるよう留意したり、レクリエーションなどを通じて共同作業をして頂くことで、お互いの関係性が築けるような内容のサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度となり、併設施設に入所となった利用者の家族と会った時、声かけをして話を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が反映出来るようじっくり話を聞くと共に、生活の中での様子や反応からも把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者については、生活歴、家族からの希望・要望を基に支援している。	入所時のアセスメントを基本に、生活の中での様子や反応から本人の意志を汲み取り、家族との面談からも思いや意向を把握できるよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたりその人らしい生活をして頂けるよう、介護支援専門員が本人・家族から生活歴、趣味、習慣等生活背景に関する聞き取りを行いフェイスシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況、言動、バイタルチェック、ケアプラン実施記録を介護ソフトウェアに入力し、出勤時は必ず目を通すようにして現状把握をしてから勤務をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの聞き取り、毎月のグループ会議の話し合いを経て利用者の現状、要望に沿った介護計画を作成している。月に1回モニタリングを実施し、現状に即したサービスが提供できるよう努めている。	本人、家族からの聞き取り、GH会議等から利用者の現状、要望に沿った介護計画を作成している。月に1度のモニタリングでより現状に即したサービスの提供に努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、言動、特変時の詳細を介護ソフトウェアの各項目に入力している。それを基に、介護士会でケアの方針や意見交換を行い、モニタリングや計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・本人からのニーズに対し、その都度、事業所や本人、家族の状況や状態を把握し、現状を踏まえながら出来る限りのニーズに柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症のリスクを配慮し、人混みの行事や場所は避けている状況である。ドライブや施設周辺の散歩を行う事で地域の有形資源(自然条件)を活かした活動を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めている。受診時は、適切な医療を受けられるように情報提供している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。外部受診は家族同行が基本だが、急変時は併設特養の車にて職員が同行受診されている。また、月1回内科医、週1回歯科医の往診も支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に、併設施設の看護職員に報告・相談をして対応してもらっている又、受診に繋がる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ情報提供し、適切な治療と早期の退院に向けて関係者と連携がとれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り(終末期)に関する指針があり、入所時に説明している。状態変化があれば、事業所で出来る事、出来ない事の説明を再度家族に説明して、より良い支援となる様に取り組んでいる。	看取りについてのマニュアルの勉強会を全職員が実施されている。契約時に看取りに関する希望を聞かれ、重度化した場合について、事業所で出来る事、出来ない事を説明し、状態の変化があればその都度確認しながらチームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが整備されており、救命救急の研修について2月の介護士会で実施する予定にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、緊急時の対応を周知している。年2回防災訓練を実施し消防関連業者の立会いの下、災害時の対応、適切な避難方法等を研修している。	防災マニュアルを作成し緊急時の対応を職員に周知されている。年2回、6月(日中)と10月(夜間想定)に併設特養と合同で防災訓練を実施。地域の豊実分団の団員も参加され、地域との協力体制を築きながら、適切な避難方法等の研修が行われている。また、BCP(事業継続計画)を作成し、災害時に備えられている。備蓄はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあり、全職員を対象とした虐待の自己点検チェックシートを実施している。集計して、虐待防止委員会にて内容を検討。人格尊厳やプライバシーの確保についても確認している。	プライバシー保護マニュアルが作成されており、全職員に無記名で自己点検チェックシートの記入を併設施設と合わせて実施し、虐待防止委員会にて問題をチェックし、会議で改善策を話し合い、プライバシー保護に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で思いや希望を引き出し利用者の意思を尊重したケアを行っている。自己決定が難しい利用者に対しては、その場の雰囲気、表情で読み取るよう日頃からコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分、体調に配慮しながら活動への参加の声掛けを行い、本人の希望に沿った支援をしている。本人のペースを大切に、出来る事・出来ない事を職員間で話し合いながら個々に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える時は、好みの服を選んで頂いている。カットやカラーリングも希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の能力に応じて、一緒に料理の盛り付け等利用者に役割を持って頂き職員と共に行なっている。また、ちまき、餅つき等の季節行事を実施している。	食事は併設特養の管理栄養士の作成したメニューとなっている。個々に合わせた食事形態で提供され、食材の皮むき、料理の盛付け等、利用者と一緒に行われている。また、利用者の要望を聞かれながらお好み焼きやたこ焼きパーティーを楽しまれたり、おやつ作りや季節の行事食等、食事が楽しみなものになるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や1日の水分量を記録し、水分が足りない方には好みの飲み物を提供している。ナリコマの献立は隣接する特養の管理栄養士に確認してもらい、栄養価を考慮したメニューとなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。自立ケアが困難な利用者に職員が介助を行い口腔内の観察、状態を確認している。義歯に関しても週1回ポリドントを使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿パターンを把握し、定時の案内、声掛けを行っている。また、上記以外に訴えがあった際にはその都度トイレへ案内している。必要に応じてポータブルトイレも使用している。	個々の排尿パターンを把握し、排尿までの時間や間隔、失禁等について介護士会(スタッフ会議)で話し合い、個々に添ったトイレ案内をされている。夜間はポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が不足する場合、家族と連携を取り本人の好みの物を依頼している。毎日、ラジオ体操やリハビリ体操へ参加できる様に支援しながら、身体を動かす機会を作り、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の体調や気分により柔軟に対応している。いろいろな入浴剤を使用し、入浴を楽しんでもらったり、近所の方から柚子の差し入れ時は、浴槽に浮かべ季節感を味わって頂いている。	入浴は日中の午前中に行われ、週2回は入浴できるよう支援されている。拒否があった場合は無理じいせず、日にちや人を替えて対応され、清潔保持に努められている。また、入浴剤や柚子風呂などリラックスしながら入浴が楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で静養が必要であったり、昼寝の習慣がない人もあり、生活習慣を尊重している。夜間帯は、一人ひとりに応じた温度や照明により、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容(量、効能、副作用など)はカルテに保存し、職員がいつでも閲覧し把握出来るようにしている。処方箋が変更になった際は、その旨を介護ソフトウェアの経過記録に入力し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや掃き掃除、洗濯物たたみ等の軽作業を依頼することで、役割を持って生活できるように支援している。レクリエーションや行事を通じて、気分転換や楽しむ機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺であれば、健康状態、その日の天候等を考慮した上で、散歩、日光浴による外出を行っている。家族の希望にて、外出・外食の受け入れも制限なく行っている。	年間行事による 花見ドライブ、あじさいドライブ、紅葉ドライブや、地域の方のアドバイスで近隣の名所へドライブに出かけられる他、天気の良い日は施設周辺の散歩や個別対応でのドライブ、玄関前のベンチでお茶を飲まれる等、機会を見つけて戸外へ出かけられている。また、家族との外出や外食の支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持を希望されるご利用者はなく、所持したり使う場面もなく支援していない状況である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、携帯電話を持参されているご利用者がおられ、取次できるように支援している。手紙のやり取りの支援は出来ていない。電話がかかればその都度取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と一緒で作成した作品を壁面や居室の入り口に展示して、季節を味わって頂いている。デイルームの窓から、紅葉する木やその日の天候等を視覚で感じられる環境となっている。	共用の空間は清掃が行き届き、温度・湿度管理され、快適な空間となっている。随所に季節の花が飾られ、壁には利用者と共に作成した作品や季節ごとの飾りが飾られ、利用者はデイルームの窓から季節の景色を眺めながらTVや趣味の活動を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時や休息したい時は居室に行かれたり、寂しいからとデイルームで気の合うご利用者と過ごされることもある。デイルームが見渡せる廊下の中央に置いてあるソファーは、居場所づくりになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に説明して、自宅で使用されていた馴染みの物を持参して頂き、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	居室はエアコン、洗面台、加湿器が設置され温度・湿度計にて空調管理しながら、定期的に換気が行われている。室内はテレビ、タンス、家族写真、趣味の作品等馴染みの物が持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事を理解し、その人の能力に応じた生活を送って頂ける様グループ会議で検討をしている。また、自分の居室がわかるように表札を設置している。		